

観光地の再生

(第1報)

石井 廣 志

0. はじめに

どのような地域であれ地域には、地域特性がある。その特性は自然的なものもあるし、また歴史・文化的なものもある。ただこれらの特性が埋もれ意識されないまま眠っているケースが多い。一般に、住み慣れた環境を当然なものと思い、他の地域との比較において、地域の特性を引き出す努力に欠けている地域が多い。しかし、ひとたび地域の特性が発揮されると、思いの外その連鎖の輪の大きいことに気付くことになる。「地方の時代」は、地域がよって立つ生命の基盤である風土・自然の特性を知ることから始まる。地域は、その地域の風土を抜きにしては語れない。風土に根ざし風土が培った特性を引き出し、常に普遍化していく努力の中にこそ地域づくりがあるといえよう。

わが国経済の高度成長期においては、全て中央志向する中で、平均化・画一化される過程を通して地域の特性が置き去りにされたままの状態が多かった。こうした中で「地方の時代」が叫ばれてからはや30年あまり経過してはいるが、そのねらいは地域のもつ独自性を再発見し、洗練化していくことであるといわれてきた。地方に住む人達にとって、地域の特性に即して、地域の独自性を発揮するための自律の精神こそ、いささかも色あせず今日の「地方の時代」がなお要請する課題であると思われる。

例えば、瀬戸内海に位置する広島県豊田郡瀬戸田町は、瀬戸内海地方特有の立地条件から、温暖で雨量が少ない気候を活かした柑橘類の栽培に恵まれた気象であるが、西の日光と言われる「耕三寺」と新旧の建物が混在し土産物店が立ち並ぶそ

の参道でも知られている。また、1997年4月に開館した「平山郁夫美術館」は瀬戸田町が生んだ、日本を代表する画家「平山郁夫」の作品を一堂に集めた「和」の美術館で、平山郁夫画伯の今日に至るまでの偉業を余すところ無く紹介している。

しかし、近年モータリゼーションの進展、ライフスタイルや商業環境の変化等を背景に、全国の中心市街地で「空洞化」現象が見られるようになっている。瀬戸田町においても例外ではなく、これまでの町の発展の原動力となってきた瀬戸田港を擁し、豊かな歴史文化資源の蓄積を持つとともに多くの商業施設・公共施設が立地し、文字通り瀬戸田町の「顔」であった中心部で、定住人口の減少や空き店舗の増加、商業活動の低迷などの問題が起こっている。

1999年5月1日に広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「本州四国連絡橋・尾道-今治ルート」、愛称「瀬戸内しまなみ海道」が全線開通した(図1)。瀬戸内海に浮かぶ大小8つの島々に10本の橋を架けるという空前のこころみであり、先に開通した「児島-坂出ルート」、「神戸-鳴門ルート」と合わせ事業費約3兆円という巨大プロジェクトであった。この「しまなみ海道」が開通したことにより、瀬戸田町では年間300万人を超える観光客が訪れ、周辺地域の中でも傑出した観光中心地となるなど、大きな環境変化がみられ、町の中心部の再生や活性化を図る上でもまたとないチャンスが訪れている。しかし今日、観光客数は「しまなみ海道」開通前の水準に戻っており、瀬戸田町の定住人口はそれにもかかわらず、ここ20年あまり減少を続けている。

本稿は、このような背景のもと、魅力と活力のあるまちづくりを推進することを目的に、国土交

通省の「観光まちづくりアドバイザー派遣制度」に基づき、(社)日本観光協会が実施した「観光まちづくりアドバイザー派遣事業」に協力した内容について紹介するものである。即ち、瀬戸田町

観光商工課からの要望に基づき、瀬戸田町の観光の展開、集客力の回復・増加のための方策についてアドバイス、助言を行ったものである。以下にその内容を紹介する。

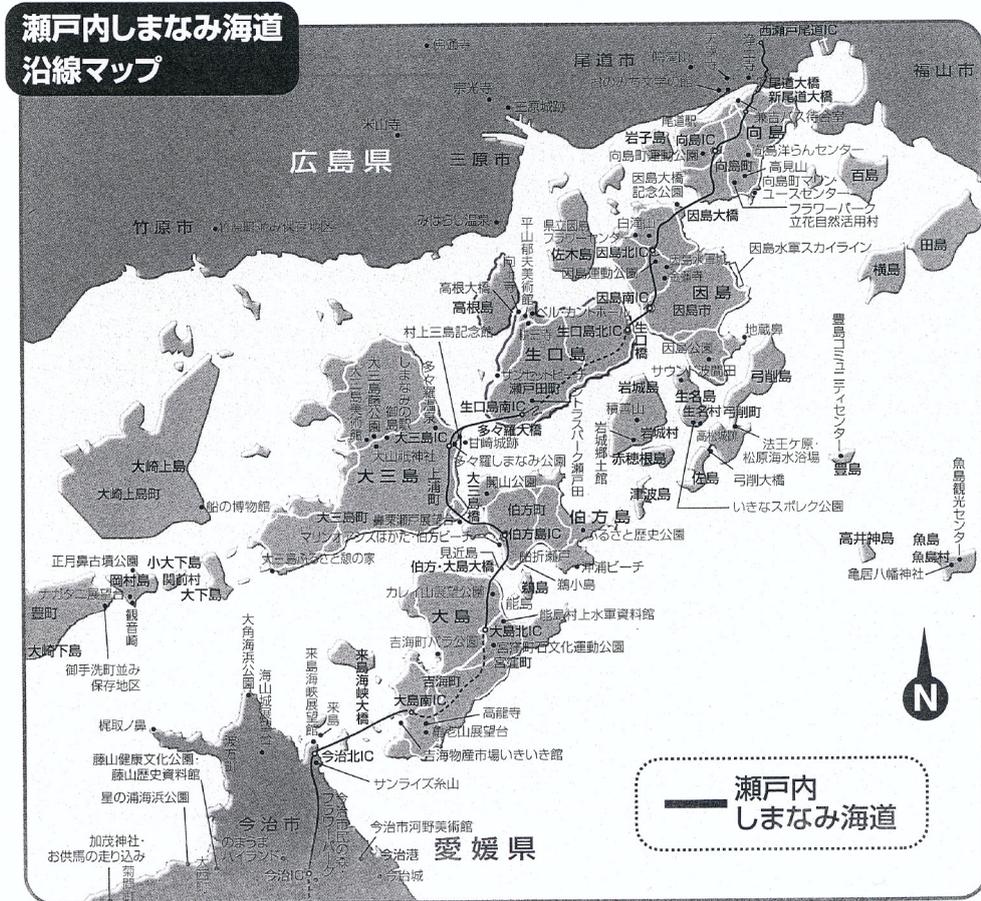


図1 瀬戸内しまなみ海道

1. 地域の概要、現状、問題、課題の整理

(1) 人口の推移と目標

瀬戸田町史（地理編、民俗編、耕三寺編、資料編）と瀬戸田町勢要覧をもとに1960年代から今日まで、40年間あまりの瀬戸田町のまちづくりの流れを表1-1～表1-3に整理した。

表1-1～表1-3によれば、瀬戸田町の人口は、1960年の12,701人（国勢調査：以下同様）から2000年の9,606人まで横這いの時期もあるが、ここ20年間ほぼ一貫して減少してきている。まず

1960年（昭和35年）から1965年（昭和40年）までの我が国の高度成長期への突入時には、600人あまりの人口減少を生じている。その後は、1985年（昭和60年）までの20年間の長きにわたり、12,000人前後で推移する。すなわち、我が国の高度成長期から1973年（昭和48年）の第一次オイルショック、さらに第二次オイルショックを経て低成長期まで、低成長期に入りやや減少するものの、ほぼ横這いで推移する。しかし、1985年以降は再び減少を続け、1990年（平成2年）まで

の5年間で300人あまり減少し、さらに1995年(平成7年)までの5年間で600人あまり、その後の5年間で400人あまりそれぞれ減少し、2000年(平成12年)には1万人を切る9,606人に減少する。1990年9月に瀬戸田町長期総合計画一せとうち・せとだ21プランーが目指した、現状とほぼ同様の平成12年(西暦2000年)目標人口12,000人を2,400人下回ることとなった。

そこで、2002年3月に瀬戸田町第3次長期総合計画「住んで良く訪れて楽しい・瀬戸田一げんきづくり、しあわせづくり計画」では、1995年水準までの回復をねらって、平成22年(2010年)目標人口を10,000人(2000年の9,606人より400人増)に設定している。ただし、この目標人口は、

従来の計画人口(事業の基礎数値として活用)とは異なる考え方に立っている。目標人口は、このままの推移人口に対して、町民・行政の努力で達成する人口目標で、現実の施策においては、努力の結果を見極めながら、現実に即した基礎数値を使うこととしている。

(2) 入込観光客数(交流人口)の推移と目標

次に、町で交流人口と定義づけている入込観光客総数は、1967年(昭和42年)の657千人から1975年(昭和50年)までは高度成長期の観光ブームもあって859千人まで増加する。しかし、低成長期に入るとともに一転して入込観光客総数は減少し1980年(昭和55年)には590千人、1985

表1-1 瀬戸田町のまちづくりの流れ(1960～1970年代)

年代	主な出来事	観光施設等	農業・漁業・工業・商業	まちづくり・イベント等
1960年代	[1960 12,701人/国勢調査] 1962 三原行きフェリー就航 1964 水中翼船就航 [1965 12,081人/国勢調査] 1967 町営バス生口島一周開始 1968 五本松フェリー就航	1962 向上寺三重塔改修 1963 観音山登山道路工事 1968 光明坊十三重塔改修 「茗荷神楽」県無形民俗文化財に指定	1960 瀬戸田商工会発足 1962 高根島一周道路開通 1963 レモン自由化阻止 1964 農業構造改善事業(林)始まる 1967 農免道路(林～御寺)トンネル完成 1968 合併農協組合発足 1969 農免道路(林～御寺)完成	1960 町営プール完成 1961 町文化財保護条例制定 1963 本町に街灯設置 [1967 入込観光客総数/654千人]
1970年代	[1970 12,089人/国勢調査] 1971 町営バス高根線開通 1972 山陽新幹線開通 1973 瀬戸田一三原高速艇就航 瀬戸田港付近理め立て [1975 12,051人/国勢調査] 1975 和気町長 港湾ビル完成 1976 本土から送水開始 瀬戸内海大橋架橋対策協議会設置 1977 瀬戸田一尾道高速艇就航 1978 特別不況地域指定 無火災都市宣言 1979 役場庁舎完成 簡易水道事業完成	1971 最初の観光診断(瀬戸田町・日本観光協会) 1972 光明坊収蔵庫完成 文化財保護モデル地区指定 1973 郷土文化研究会発足 1976 観音山遊歩道整備 第1回観光写真コンテスト(観光協会) 港湾ビル1階に観光案内所を設置(観光協会) 歴史民俗資料館公開 1978 垂水天満宮ウバメガン群落が県天然記念物に指定	1970 高根大橋開通 農協遊果場完成 1971 瀬戸田塩業組合解散 専売公社瀬戸田出張所廃止 1972 内海造船機発足 1973 瀬戸田町商店街診断報告書 1974 畑総農道(中野～垂水)完成 1976 内海造船機6万トンドック完成 1977 農業祭(農協)始まる 1978 地域農政推進協議会設置 農協本所完成 農漁業及び商工業後継者対策協議会を設置	[1970 入込観光客総数/678千人] [1975 入込観光客総数/859千人] 1974 瀬戸田町美術展始まる [1975 入込観光客総数/859千人] 1976 壮年走ろう会マラソン大会始まる 1978 短縮マラソン大会始まる コミュニティづくり推進協議会設立 1979 瀬戸田町第一回夏祭り(観光協会) 初もうで事業(観光協会)

(出所)『瀬戸田町史(地理編、民俗編、耕三寺編、資料編)』、『瀬戸田町勢要覧』より作成

年（昭和60年）には440千人と10年間でほぼ半減する。その後は再び増加に転じ、1990年（平成2年）には688千人まで回復し、1991年（平成3年）には782千人、1992年（平成4年）には100万人を超える過去最高の1,071千人に達する。しかし、1993年（平成5年）から1996年（平成8年）までは減少、やや回復を繰り返してトータルで160千人の減少となり100万人を割り込む。その後の3年間は再び増加に転じ、1997年（平成9年）には再び100万人を超え、1998年（平成10年）には1,344千人、瀬戸内しまなみ海道が開通した1999年（平成11年）には一挙に3,108千人に達する。2000年（平成12年）はほぼ半減し、100万人台となり、2001年（平成13年）1,150千

人、2002年（平成14年）1,050千人と10年前の1992年水準にまで減少するが、100万人台を維持している。

年間100万人超の入込観光客総数は単純計算で一日あたり交流人口3,000人となり、それによる情報・文化活動効果、経済効果は相当なものである。このあたりについて、前述した瀬戸田町第3次長期総合計画「住んで良く訪れて楽しい・瀬戸田一げんきづくり、しあわせづくり計画」では、交流人口の推移の項で、『「芸術・文化のまち」「観光リゾートのまち」として広く全国に知られるようになった本町では、数多くの来訪者によって町の活気もたらされています。交流人口によって経済効果・文化的刺激・社会的活気もたらされ

表1-2 瀬戸田町のまちづくりの流れ（1980年代）

年代	主な出来事	観光施設等	農業・漁業・工業・商業	まちづくり・イベント等
1980年代	【1980 12,012人/国勢調査】	1980 観音山〜中野ダム〜茶臼山遊歩道完成 火の滝山観音堂落慶	1980 瀬戸田本通商店街診断報告書 漁業組合事務所完成 日本栽培漁業協会瀬戸田実験地（御池） 1981 省エネ園芸施設用地完成 1982 瀬戸田商工会館完成 オレンジ果汁輸入自由化阻止総決起大会 かんがい排水事業・畑地帯総合土地改良事業完成 豊漁祭	【1980 入込観光客総数/590千人】 1980 コミュニティスポーツ広場完成（中野ダム） 1981 文化団体協議会結成 1982 文部省「豊かな心を育てる施策推進モデル市町村」指定 第一回芸能祭
	1983 沢フェリー乗り場完成 因島大橋開通	1983 貸出し自転車置場を設置（観光協会） B&G財団瀬戸田海洋センター完成		
	1984 茗荷一鬼岩フェリー就航	1984 ベルカントホール工事着工 垂水海浜基地着工	1984 尾道地方農業共済事務組合発足 1985 伊豆農免道路（萩〜福田）着工	1984 元県病院跡地に駐車場を設置（バス10台） 耕三寺参道商店街に名称変更 【1985 入込観光客総数/440千人】 1986 第一回全国・離島交流ゲートボール親善大会
	【1985 11,932人/国勢調査】	1986 町民憲章制定 町の花・たちばな、町の木・ウバメガシ制定 名誉町民に平山郁夫画伯・故耕三寺耕三師 生口橋起工式	1986 町民会館・ベルカントホール完成 1987 垂水リゾート基地（サンセットビーチ）起工 1988 サンセットビーチ一部オープン 1989 案内所を港湾ビル前に移動（職員を一人採用） サンセットビーチが「'89海と島の博覧会ひろしま」の会場となる	1987 第一回孝養祭り（観光協会） 垂水区コミュニティ推進協議会が広島県団体賞を受賞 1988 運輸省の国際モデル地区に指定（瀬戸内海中央地区の14市町） 瀬戸田健康まつりを開催 1989 潮音山公園を愛する会が発足 本町参道商店街が発足 第1回せとだビエンナーレ（島ごと美術館） 第一回全国離島芸能祭を開催
	1989 「'89海と島の博覧会ひろしま」			

（出所）『瀬戸田町史（地理編、民俗編、耕三寺編、資料編）』、『瀬戸田町勢要覧』より作成

ているのが本町の姿であり、町の特質です。』と述べている。さらに、本計画では、架橋前 100 万人、全通時 300 万人を踏まえ、その中間である 200 万人を、平成 22 年（西暦 2010 年）の目標交流人口（入込観光客総数）としている。

(3) 人口の推移と産業との関係

(1) に述べた人口の推移を町内の産業との関係でみてみよう。町内における主要な産業について表 1-1～表 1-3 からみると、1960 年代は農業と製塩業であったことがうかがわれる。1970 年代に入り、1971 年の瀬戸田塩業組合の解散により農業へ重点が移るとともに柑橘を中心とした農業の基盤整備が進むことになる。同時に我が国にお

表 1-3 瀬戸田町のまちづくりの流れ（1990～2000 年代）

年代	主な出来事	観光施設等	農業・漁業・工業・商業	まちづくり・イベント等
1990 年代	<p>【1990 10,616 人／国勢調査】</p> <p>1990 瀬戸田町長期総合計画一せとうち・せとだ 21 プランナー国道 317 号垂水バイパス完成多々羅大橋起工</p> <p>1991 島と橋のフォーラム開催生口橋開通ワイセンベルク来町、ベルカントホールで公演</p> <p>1992 平山郁夫画伯の「私の道」発刊三原—高根架橋推進協議会開催</p> <p>1993 海をきれいにする運動シンポジウム開催</p> <p>【1995 10,011 人／国勢調査】</p> <p>1995 柴田町長三原—瀬戸田航路共同運航開始瀬戸田町合併 40 周年瀬戸田都市計画マスタープラン</p> <p>1997 ホームページ開設（県内自治体で 5 番目）</p> <p>1998 平山郁夫画伯文化勲章受章</p> <p>1999 瀬戸内しまなみ海道開通</p>	<p>1990 サンセットビーチ Bゾーンと併せ県内最大のビーチとなる第一回カーニバルサンセット（サンセットビーチ）</p> <p>1991 サンセットビーチ「日本の海水浴場 55 選」に選ばれる牡蠣山山頂に休憩所設置</p> <p>1992 サンセットビーチ追加工事に入る潮音山公園にトイレ設置</p> <p>1993 向上寺銅鐘が県の重要文化財に指定町民会館前公衆トイレと休憩所設置</p> <p>1994 岩切章太郎賞受賞平山美術館の建設決定されるシトラスパーク起工</p> <p>1995 サンセットビーチの完成平山美術館起工</p> <p>1996 第三セクター「シトラスパーク瀬戸田」設立</p> <p>1997 平山美術館開館</p> <p>1998 シトラスパーク瀬戸田開園優秀観光地づくり賞受賞日本の水泳場 55 選認定</p>	<p>1990 瀬戸田町広域商業診断報告書</p> <p>1991 伊豆里地区農免道路トンネル工事着工</p> <p>1994 農業集落排水処理施設起工</p> <p>1997 農免道路伊豆里線開通</p>	<p>【1990 入込観光客総数／688 千人】</p> <p>1990 町史編纂委員会発足</p> <p>【1991 入込観光客総数／782 千人】</p> <p>1991 第 2 回せとだピエンナーレコンピューター・グラフィックスによる景観検証が始まる（ふるさと創生事業）</p> <p>沢に駐車場とトイレを設置商店街でジャンボ巻きずし大会三原—瀬戸田間の統一時刻表作成</p> <p>【1992 入込観光客総数／1,071 千人】</p> <p>1992 瀬戸田町景観育成基本計画等策定業務報告書「手づくり郷土賞」にせとだピエンナーレが選定される潮音山にトイレ、道路設置（ふるさと創生事業）</p> <p>【1993 入込観光客総数／933 千人】</p> <p>1993 第 3 回せとだピエンナーレ北町海岸の整備が始まる</p> <p>【1994 入込観光客総数／957 千人】</p> <p>1994 「ふるさとづくり」県知事賞受賞</p> <p>【1995 入込観光客総数／879 千人】</p> <p>【1996 入込観光客総数／912 千人】</p> <p>1996 第 4 回せとだピエンナーレ第一回観月会</p> <p>【1997 入込観光客総数／1,035 千人】</p> <p>【1998 入込観光客総数／1,344 千人】</p> <p>1998 汐待亭解放（商店街、商工会青年部）</p> <p>【1999 入込観光客総数／3,108 千人】</p> <p>1999 第 5 回せとだピエンナーレ</p>
2000 年代	<p>【2000 9,606 人／国勢調査】</p> <p>2002 瀬戸田町第三次長期総合計画一げんきづくり・しあわせづくり計画</p>	<p>2000 観光案内所を町民会館前に移動、自転車ターミナル併設</p> <p>2001 島'んマップ発行</p>	<p>2000 瀬戸田町中心市街地活性化基本計画</p> <p>2001 瀬戸田町中心市街地商業活性化（TMO 構想・瀬戸田町商工会）</p>	<p>【2000 入込観光客総数／1,779 千人】</p> <p>2000 21 世紀瀬戸田町のまちづくりについて（調査結果概要）</p> <p>【2001 入込観光客総数／1,150 千人】</p> <p>【2002 入込観光客総数／1,050 千人】</p>

（出所）『瀬戸田町史（地理編、民俗編、耕三寺編、資料編）』、『瀬戸田町勢要覧』より作成

ける高度成長期を支えた近代工業の発展に伴う内航造船業の立地もあって、全国的な人口の都市集中時期（地方では過疎化の進む時期）にあっても、1960年代後半から人口減とはならず、12,000人の人口を低成長期に入った1980年代後半まで維持する。この間農業部門は発展するが一方では国際化の影響を受け、オレンジ果汁輸入自由化阻止への運動も起こる。漁業部門においては漁業組合事務所の完成とともに採る漁業から育てる漁業への動きをがみられる。また、商業部門も1980年代のはじめに瀬戸田本通商店街診断を実施する。

1980年代後半以降（昭和60年以降）は、農業部門の引き続き発展、入込観光客総数の減少に危機感を感じた商業部門における活発な動きがみられるものの、その後も人口減少は続く。1991年の生口橋の開通、1999年の瀬戸内しまなみ海道開通は一時的に入込観光客総数を急増させたものの人口減に歯止めがかかることはなかった。

(4) 入込観光客数の推移と観光施設・まちづくり・イベントとの関係

瀬戸田町における1960年代後半から1970年代にかけての入込観光客総数の増加は、高度成長期と軌を一にする観光ブームも手伝ってはいるが、何といても1939年（昭和14年）以来、順次造営されてきた耕三寺に負うところが大きい。併せて向上寺や光明坊の改修にみられる文化財の整備やアクセスの改善が、耕三寺をはじめ文化財を中心とした観光として注目されたからであろう。1972年の文化財保護モデル地区指定もこれらが評価された結果である。しかし、1970年代後半から1980年代後半にかけての入込観光客総数の半減は、文化財の整備やアクセスの改善を進めたものの、文化財を中心とした観光も頭打ちとなり、入込観光客総数を支えきれなかったことがわかる。

そこで1985年以降、町は一転して、ベルカントホール、サンセットビーチなどの集客型の文化・観光施設整備を打ち出す。1988年にサンセットビーチが一部オープンし、1989年に「89海と島の博覧会ひろしま」の会場となり、第1回せとだピエンナーレ（島をまるごと美術館にしたいという発想から始まり、隔年毎に実施されている「島

ごと美術館」）が開催される。1991年に第2回せとだピエンナーレが開催されるとともに、サンセットビーチが「日本の海水浴場55選」に選ばれる。この結果、1990年代のはじめにかけて、ベルカントホールの完成、サンセットビーチのオープンに生口橋の開通も後押しすることとなり、入込観光客総数が回復するとともに、1992年に初めて100万人を超えることになる。同年、「手づくり郷土賞」にせとだピエンナーレが選定される。

1990年代の中頃に入込観光客総数は一時横這いからやや減少し100万人を割り込むことになるが、これまでの町の観光への取り組みが、評価された結果、1994年に「岩切章太郎賞」を受賞するとともに、同年「ふるさとづくり」県知事賞も併せて受賞することになる。同じ年、平山美術館の建設が決定されるとともに、シトラスパークも起工式を迎える。1995年に入り、町長が柴田氏に替わるが、三原一瀬戸田間航路の共同運行が開始され、サンセットビーチは完成を迎え、平山美術館も起工し、観光施設整備も新しい段階に入る。

1990年代後半に入るとともに、これらの受賞を裏付けるように、入込観光客総数は増加に転じ、1997年には入込観光客総数は再び100万人を超える。1996年にせとだピエンナーレも第4回を迎え、島ごと美術館（町内に17を数える野外彫刻）のうちの一つ「ベルベデールせとだ」を利用した第一回観月会も催される。1997年には、平山美術館が開館し、1998年にはシトラスパーク瀬戸田が開園を迎え、同年商店街、商工会青年部の努力により汐待亭（旧特定郵便局舎を利用した瀬戸田町の情報発信所・休憩所）が解放される。このような町の取り組みにに対し、「優秀観光地づくり賞」を受賞するとともに、サンセットビーチが「日本の水泳場55選」に認定される。この年の入込観光客総数は1,344千人となる。

このような状況の中で、1999年に瀬戸内しまなみ海道が開通を迎え、第5回せとだピエンナーレとも重なり、同年の入込観光客総数は前年の2.3倍の3,108千人に達する。したがって、様々な観光に関する施設やイベント等が整った時にアクセス条件の大幅な改善が大きなプッシュ要因として

働いたことがうかがわれる。高速道路をはじめとするアクセス条件の大幅な改善は、それまでの人の動きを加速する方向に働くことが知られているが、その通りのことが瀬戸内しまなみ海道の開通により起こったとみられる。

2000年に入り、入込観光客総数は減少に転じるが、2000年は1,779千人で瀬戸内しまなみ海道開通の前年をまだ上回っている。しかし2001年には1,150千人となり同前年を下回る事となり、2002年には1,050千人となり、5年前の1997年水準にもどる。この入込観光客総数は1990年代前半までのうち最も高い年間100万人を超えた10年前の1992年水準である。

とはいえ今日、瀬戸田町を訪れる入込観光客総数が年間100万人を超えるということは、前述し

たように単純計算で一日あたり3,000人となり、それによる瀬戸田町に及ぼす経済効果、情報・文化活動効果は相当なものであるだけに、今後の観光の展開・集客力の維持は喫緊の課題となっている。

2. 問題解決、課題対応のための基本的な考え方の整理

1でみたように、瀬戸田町は観光地として発展してきたことがわかり、観光先進地として評価され全国から注目を集めてきたのである。したがって、新たな観光振興について今更述べるより、今日の状況を踏まえ、いくつかの問題提起をすることにした。

表2-1は青木史郎、黒田宏治両氏によって「芸

表2-1 成功要因による事例評価（8事例）

成功要因	事例	福井県 武生市 タケフナイフ ビレッジ	滋賀県 長浜市 黒壁スクエア	三重県 伊勢市 おはらい町通り 再開発	島根県 吉田村 鉄の歴史村	岐阜県 明智町 日本大正村	山形県 長井市 市民デザイン 活動	宮崎県 綾町 まちづくり	(参考) 宮崎県 高千穂町 夜神楽
○基本的な要因	・問題意識の共有 ・地元有志の熱意 ・キーパースンの存在	● ●	●	● ●	● ●	●	●	● ●	●
○着眼点、着想力	・地域の資産（ソフト、ハード） ・資産の今日的評価（組み合わせ、編集） ・「物語」化（ストーリーの組立）	● ● ●	●	●	● ●	●	● ●	● ● ●	● ● ●
○企画力、構想力	・活動、事業コンセプト ・活動、事業の展開シナリオ ・フィージビリティ・スタディ	●	● ● ●	● ● ●	●	● ●	●	● ●	● ●
○プロデュース力	・指導力、調整力（しきり、しわけ） ・実現力（費用分担のしくみなど） ・時間、タイミングの判断 ・わかりやすい目鼻、かたちの提示	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ●	●	●	● ● ● ●	● ● ●
○実施力	・マーケティング力 ・提供されるモノ・コトの質 ・情報操作力（地域外への発信力） ・事業マネージメント力	● ●	● ● ● ●	●	●	●	●	● ●	● ●
○継続力	・経済的成功 ・「優れたかたち」「ハード」の提供 ・シンパサイザーの共感、共鳴 ・地域内外ネットワーク ・地域全体を巻き込む仕掛け ・公的助成、自治体の支援など	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	●	● ● ●	● ● ● ●	●	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●

（注）各事例について、●は成功要因として評価されるもの

（出所）青木史郎、黒田宏治「地域デザイン方法論の試みー地域デザインシナリオの提案」芸術工学会誌No.21、189-192、1999年より作成しました（表形式の変更と一部県市町村名の追加並びに宮崎県高千穂町夜神楽の追加）。

術工学会誌No.21, 189-192, 1999年」に紹介された「地域デザイン方法論の試み—地域デザインシナリオの提案」で成功要因としてあげられた6項目23要因とそれによる評価について示したものである。本来は、まちづくり全体や自治体あげてのハード整備やソフトな活動を評価するのに採用されており、この表では、福井県武生市「タケフナイフビレッジ」、滋賀県長浜市「黒壁スクエア」、三重県伊勢市「おはらい町通り再開発」、島根県吉田村「鉄の歴史館」、岐阜県明智町「日本大正村」、山形県長井市「市民デザイン活動」、宮崎県綾町「まちづくり」の事例について評価している。ここで提案されている6項目23要因については、私も宮崎県高千穂町の「夜神楽」について実際に

採用したことがあり、その有効性は評価できるものである。

表2-2では、瀬戸田町の観光施設として、1で取り上げた耕三寺、平山美術館、島ごと美術館、ベルカントホール、サンセットビーチ、シトラスパークの6つについて評価してみた。●印が成功要因として評価されるものであり、平山美術館と耕三寺はいずれも6項目のどこかに2~4つの●印がつくが、それ以外の施設では6項目のどこかに●印のつかないところがあり、●印がついても一つというものもある。無論、既に述べたように本来はまちづくり全体や自治体あげてのハード整備やソフトな活動を評価するものであり、個々の施設の評価にはなじまない点があり、そのような

表2-2 成功要因による瀬戸田町の観光施設評価

成功要因	耕三寺 住職の耕三和上が母の菩提を弔うため、30年をかけて建立した。飛鳥から江戸まで各時代の建築手法が見られる。	平山美術館 瀬戸田町の旧家に生まれた日本画家、平山郁夫画伯の今日に至るまでの偉業を余すところなく紹介する美術館である。	島ごと美術館 わが国で活躍する作家の野外彫刻を島のあちこちに設置している。現在17点あり島全体がミュージアムをねらっている	ベルカントホール イタリア語で「美しい歌」を意味し、徹底的に音響効果にこだわった世界のアーティストが競演するホールである。	サンセットビーチ 長さ800mの広大なサンセットビーチはホワイトサンドが美しい中国・四国地方唯一の海浜スポーツ公園である。	シトラスパーク 日本初の「柑橘(シトラス)類の魅力を感じながら思い思いに楽しむ」という新しいテーマパークである。	瀬戸田町の観光施設実態	瀬戸田町の観光施設の課題
○基本的な要因 ・問題意識の共有 ・地元有志の熱意 ・キーパースンの存在	●	●●						◎ ○ ○
○着眼点、着想力 ・地域の資産(ソフト、ハード) ・資産の今日的評価(組み合わせ、編集) ・「物語」化(ストーリーの組立)	●●	●●●	●		●●●	●	◎ ○	○
○企画力、構想力 ・活動、事業コンセプト ・活動、事業の展開シナリオ ・フィージビリティ・スタディ	●●	●●●	●		●●●	●●	◎ △ △	△ △
○プロデュース力 ・指導力、調整力(しきり、しわけ) ・実現力(費用分担のしくみなど) ・時間、タイミングの判断 ・わかりやすい目録、かたちの提示	●●	●●●	●		●			◎ ◎ ◎
○実施力 ・マーケティング力 ・提供されるモノ・コトの質 ・情報操作力(地域外への発信力) ・事業マネージメント力	●●●●	●●●	●	●	●●●		△ ◎ △	△ △ ◎
○継続力 ・経済的成功 ・「優れたかたち」「ハード」の提供 ・シンパサイザーの共感、共鳴 ・地域内外ネットワーク ・地域全体を巻き込む仕掛け ・公的な助成、自治体の支援など	●●●	●●●	●●●	●●	●●●	●	△ ★ ◎	△ ★ ◎

(注1) 瀬戸田町の各観光施設について●：成功要因として評価されるもの
 (注2) 瀬戸田町の観光施設実態について一成功要因として評価が★：非常に高い、◎：高い、○：やや高い、△：どちらともいえない
 (注3) 瀬戸田町の観光施設の課題について一成功要因からみると評価が★：非常に低い、◎：低い、○：やや低い、△：どちらともいえない

限界を考慮する必要があるという条件付きである。また、個々の施設の組み合わせ効果について評価しきれていない点もある。たとえば耕三寺と平山美術館、ベルカントホールは隣接しているが、耕三寺と平山美術館は天候によって補完関係（雨の日は平山美術館に人が集まる）にあるものの、ベルカントホールの訪問は目的がはっきりしている。実はこのことが、瀬戸田町の観光の一つの問題点でもあるのだが、そのことについては後に述べる。

このような条件付きであるが、この表からいくつかの指摘ができる。平山美術館の評価は最も高く、①基本的な要因、②着眼点、着想力、③企画力、構想力、④プロデュース力の4項目については満点、⑤実施力のうち「事業マネジメント力」の点で平山画伯に頼りすぎていなかったかという課題が残る。また、⑥継続力のうち「地域内外ネットワーク」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点でまだ新しいだけに今後の課題として残ろう。しかし、ほとんどの点で成功要因をクリアーしていることは注目される。

耕三寺の評価も高く、⑤実施力については満点、①基本的な要因のうち個人の発想から出発しただけに「問題意識の共有」の点で、②着眼点、着想力のうち個々の建物の主張が『「物語」化(ストーリーの組立)』を難しくしており、③企画力、構想力のうち最近における施設については考慮のうちだと思うが「フィージビリティ・スタディ」の点で、④プロデュース力、⑥継続力についても、それぞれ2つ、3つの課題が見受けられる。

サンセットビーチの評価も高く、②着眼点、着想力、③企画力、構想力については満点、⑤実施力のうち「事業マネジメント力」の点で、季節型であるだけに問題があろう。しかし、①基本的な要因、④プロデュース力については、今後課題がある。そして平山美術館と同様、⑥継続力のうち「地域内外ネットワーク」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で今後の課題として残ろう。

島ごと美術館については、②着眼点、着想力、⑥継続力については評価は比較的高く、特に⑥継続力のうち施設をイベントとして活用（ベルベデールせとだにおける観月会）することによる「地域全体を巻き込む仕掛け」として今後も期待され

る。

これに対し、シトラスパークは、①基本的な要因、④プロデュース力、⑤実施力については問題があり、②着眼点、着想力、③企画力、構想力についても評価できる点は少ない。したがって、⑥継続力についても評価できる点は少ない。

なお、ベルカントホールは、⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」の点では評価されるし、⑥継続力についても評価できる点があり、今後の利用促進に期待したい施設である。

そこで、これらの6施設の評価の単純合計で瀬戸田町の観光施設の実態について評価を加えると、表の右から2番目の評価となる。これによれば、瀬戸田町の観光施設の実態は、主要な6施設を取り上げると、②着眼点、着想力、③企画力、構想力、⑤実施力、⑥継続力については評価できる点があるが、①基本的な要因、④プロデュース力については、今後課題があることがわかる。もう少し詳細にみると、②着眼点、着想力のうち「地域の資産（ソフト、ハード）」の点、③企画力、構想力のうち「活動、事業コンセプト」の点、⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」の点、⑥継続力のうち、「シンパサイザーの共感、共鳴」、「公的な助成、自治体の支援など」の点について評価が高い。特に⑥継続力のうち、『「優れたかたち」「ハード」の提供』の点については最も高く評価できる。

このような瀬戸田町の観光施設の実態から浮かび上がってくる課題として、表の右端に示したような問題提起ができる。すなわち、観光施設の実態を裏返してみるなら、既に述べたように①基本的な要因、④プロデュース力について今後多くの課題があり、②着眼点、着想力、③企画力、構想力、⑤実施力、⑥継続力についてもいくつかの課題が指摘できる。

すなわち、

①基本的な要因については「問題意識の共有」「地元有志の熱意」「キーパースンの存在」

②着眼点については『「物語」化(ストーリーの組立)』

③企画力、構想力については「活動、事業の展開シナリオ」「フィージビリティ・スタディ」

④プロデュース力については「指導力、調整力（しきり、しわけ）」「時間、タイミングの判断」「実現力（費用分担のしきみなど）」

⑤実施力については「事業マネージメント力」「マーケティング力」「情報操作力（地域外への発信力）」

⑥継続力については「地域内外ネットワーク」「地域全体を巻き込む仕掛け」「経済的成功」

が今後の課題として提起される。

中でも、①基本的な要因のうち「問題意識の共有」、④プロデュース力のうち「指導力、調整力（しきり、しわけ）」「時間、タイミングの判断」、⑤実施力のうち「事業マネージメント力」、⑥継続力のうち「地域内外ネットワーク」「地域全体を巻き込む仕掛け」が大きな課題である。特に、⑥継続力のうち「地域内外ネットワーク」は最も大

表 3-1 観光資源開発について

観光施設のネットワーク構想 (モデル観光ルート)	組み合わせる観光イベント・施設等 (新設するものも含む)
○寺院ネットワーク ・ 耕三寺（耕三寺博物館・未来心の丘）←各寺院←寺院めぐり	・ 元旦会、涅槃会、名荷神楽奉納 ・ 母の日法要供茶式・茶筌供養茶式 ・ 地藏院逆立ちコンテスト
○美術館ネットワーク ・ 平山美術館←島ごと美術館←島ごと美術館めぐり ・ 平山美術館←しまなみ海道五十三次←しまなみ海道五十三次めぐり	・ 島ごと美術館←作家と語るツアー ・ 瀬戸田芸術祭、観月会 ・ しまなみ海道五十三次めぐり ・ ちびっ子絵画教室
○音楽ネットワーク ・ ベルカントホール一歳を利用したミニ音楽会←一歳を利用した太鼓練習場	・ 瀬戸田音楽祭 ・ 瀬戸田バリ祭～シャンソンの夕べ～ ・ 太鼓まつり：「島衆（しまなみ海道沿いの太鼓のサークル）」による太鼓競演
○シトラスネットワーク ・ シトラスパーク←柑橘農園←柑橘農園めぐり	・ 多々羅ウォーキング&みかん狩り ・ レモン祭り、安政柑まつり
○マリネットネットワーク ・ サンセットビーチ各海水浴場、B&G 瀬戸田海洋センター、広島キャンプグラウンド KOA 瀬戸田	・ 海開き、海洋スポーツ大会 ・ 夏まつり、ゆかたまつり、花火大会 ・ ビーチを利用した野外太鼓 ・ JAZZ コンサート、カーニバル ・ ひよっこりひょうたん島まつり
○みなとネットワーク ・ 瀬戸田港←島内各港←船による港めぐり ・ みなとオアシス（国認証）瀬戸田港内に公設市場（青果・鮮魚・農産加工品・水産加工品）をつくる	・ 瀬戸田水道ホーランエンヤ ・ せとうちおさんぼクルーズ「島めぐり航路事業」、汐待市 ・ 堀内邸、歴史民俗資料館、汐待亭 ・ 灯籠流し、港の石灯籠
○町並みネットワーク ・ 平山郁夫画伯生家北町の路地裏→堀内邸→汐待亭→中野集落の家並み	・ 井戸まつり ・ 歴史民俗資料館 ・ しおまち商店街、汐待市
○工芸品ネットワーク 宮原地区ガラス工房（アトリエ）→高根島地区船大工工房（和船、北前船）→その他導入工芸（下記） 〔紙・紙漉：散華、野点での利用、灯籠、画仙紙〕 〔小木工：うばめ榎細工、柑橘材を利用した細工〕 〔ひょうたん加工：ひょうたん島にちなんだもの〕	・ 瀬戸田工芸コンテスト ・ 5月母の日法要供茶式 ・ 11月の茶筌供養茶式 ・ 瀬戸田夏まつり、灯籠流し ・ ひよっこりひょうたん島まつり ・ 瀬戸田町観光物産展

（出所）「瀬戸田町観光再活性化提案メモ」2004.3.29より作成

きな課題として提起される。

3. 問題解決、課題対応のための具体的提案内容 (まとめ)

以上、1、2を踏まえ、問題解決・課題対応のための具体的提案として、「瀬戸田町観光再活性化提案メモ」(平成16年3月29日付けで瀬戸田町観光商工課担当者へ提出したもの)と「瀬戸田町観光活性化事業計画(案)」(平成16年3月29日付けで提言・助言として事業提案をしたもの)

があるが、ここでは前者について、その後加筆・修正を加えた内容について紹介し本稿のまとめとしたい。後者については住民参加型の観光再活性化のための事業計画を提案しているが、事業としての予算化の裏付けが必要なもので、本稿では紹介しないが、その進展によっては、稿を改めて紹介する。

「瀬戸田町観光再活性化提案メモ」は、Ⅰ観光について、Ⅱ特産品開発について、ⅢCIについて、Ⅳその他観光についての4項目からなっているが、

表3-2 特産品開発について

瀬戸田ブランド「アドテス」 [アドテスの意味]	特産品開発の内容 (開発・導入するもの)
○アドテス農産品 { SETODA ⇔ ADOTES → ADO - TES 『アドテス瀬戸田』 }	<ul style="list-style-type: none"> ・柑橘系特産品:新感覚ジュース(果汁が少ないなど)、ワイン、ブランデー ・レモン入り食卓塩:減塩志向に合わせて酸味による減塩効果を活かす ・柑橘、いちごを利用した香料や入浴剤 ・農業とリンクした畜産振興(摘果みかん等の飼料化と畜産排泄物の肥料化による好循環系の構築) ・柑橘だけでなく野菜栽培の導入
○アドテス水産品 { ADO → ADONIS アドーニス:ギリシア神話で女神(Aphrodite) に愛された少年, 美少年・好男子 }	<ul style="list-style-type: none"> ・たこ料理の提供:たこめし, たこピラフ, たこパエリア, たこ丸揚げや瀬戸内焼き等の創作 ・料理開発:新鮮な魚貝を利用した北前船盛り(鍋), 製塩道具盛り等 ・みなとオアシス瀬戸田・港弁当(駅弁として創作):たこめし, 浜子鍋めし, あなご料理→三原港(駅), 尾道港(駅), 新尾道駅, 福山駅, 瀬戸田パーキングエリア, 広島空港等で販売
○アドテス工芸品 { TES: TESS (テス:女性名Theresaの愛称) TEST (聖書Testament) }	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸田曼陀羅(平山郁夫画伯のデザイン)の商品化:ガラス細工, モニュメント, スーベニアカップ ・島ごと美術館のミニチュアの商品化 ・うばめ樫を使った特産品(土産品):北前船, 千国船, 機帆船, 向上寺五重塔, 光明坊十三重塔等のミニチュア
○アドテス特産品 *すでにある特産品 { 季節の柑橘類, フルーツゼリー・ジャム, レモン製品, はちみつ, 干しだこ, 甘酒まんじゅう, 瀬戸田名物コロッケ, アイスcream (瀬戸田・手づくりジェラード), 清酒等 } の提供方法やPRの見直しも含めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸田ブランドの塩, 味噌・醤油等の醸造製品 ・炭:うばめ樫(高級燃料), 剪定した柑橘の枝・幹, 柑橘類そのものの炭化オブジェ(消臭効果をねらったもの) ・ひょうたん:瓢箪園とその加工品(ひよっこりひょうたん島にちなんで) ・瀬戸田ブランドのアドテス特産品三昧(工芸品セット, 食品詰め合わせ等)の話題性のある商品開発

(出所)「瀬戸田町観光再活性化提案メモ」2004.3.29より作成

ここでは表形式に整理・統合したものを示す。

表3-1は観光資源開発について、2の中で、瀬戸田町の観光施設の実態から導き出された最大の課題である⑥継続力のうち「地域内外ネットワーク」に注目し、観光施設ネットワーク構想について提案している。今日の財政事情、経済動向からして新たな施設をという段階ではなく、観光先進地域として既に作り上げてきた施設の再活性化が最も必要あり、かつ観光施設の量より質の向上を目指して、施設の再構築をねらっている。無論、ある程度の投資は必要と思われるが、あまり金をかけないで知恵を絞って欲しいということである。従来、町内にバラバラにつくられていた観光施設をはじめ、現在は観光施設（資源）ではないが利用の仕方によっては観光施設（資源）となりうるものを核となる観光施設（資源）のもとにネットワーク化を図るものである。寺院や美術館等の個々のネットワークにより、観光施設（資源）が点から線となりさらに面となり、それらが重なり合って新たな線や面となることをねらっている。具体的には、それぞれのネットワークが、観光コースとなり、それらが重なり合い、様々な世代に対応できる観光地としての一段高い処を目指そうとするものである。次に、大きな課題である⑥継続力のうち「地域全体を巻き込む仕掛け」に着目し、観光イベント・施設について思いつくまま書き出したものであり、観光施設ネットワーク構想と不可分のものである。

表3-2は特産品開発について、観光土産品をねらった特産品開発について既にあるものも含め書き出してみたものである。瀬戸田ブランドとして「アドテス瀬戸田」を提案しているが、CI（ロゴ）として育てていって欲しいコピーである。表に示したように、「せとだ」のローマ字書きを反対に読んだものであり、その意味も表に示したとおりである。

どちらも瀬戸田町の観光が文化、芸術にシフトしていくことを外に向かってアピールできないかということから提案したものである。即ち、瀬戸田町の観光が文化、芸術にシフトしていく中、もう一度町民の手に取り戻すため、地域産品を生活や工芸の視点から観光資源開発・特産品開発や

まちづくりに活かすことを提案したものである。地域産品としてポストレモン、ポスト柑橘を目指したものである。もとより一つのでこで地域が活性化するわけではなく、これらの提案を同時並行的にかつ町ぐるみで取り組む必要がある。その際のコネクトとして、観光施設のネットワーク化を進めるとともに、まちづくりの視点は欠かせない要素である。

本稿では紹介出来なかったが、平成12年3月に策定された「瀬戸田町中心市街地活性化基本計画～ひかり輝く芸術と歴史・文化のまちへ～（瀬戸田町 2000.3）」並びに平成13年3月に策定された「瀬戸田町中心市街地商業活性化—TMO構想（瀬戸田町商工会 2001.3）」によるまちづくりの核づくりは、二つの核をつくりその間に人の流れ・賑わいをつくる構想はまちづくりの基本として強く支持したい内容を含んでいる。

いずれにしろ瀬戸田町の観光振興には、風土に根ざし風土から発想することがまず必要であり、この風土の持つ自然環境や伝統技術を尊重し、これらを媒介として新しい考え方や風潮と結びついていくことである。そして、その担い手は町民自身である。つまるところ、瀬戸田町の観光は、風土そのものである町民のみが担い手であり、町民の汗と努力を糧として生き続ける生命体であり、その中に観光再活性化の道があることを改めて指摘したい。

参考文献

1. 「商工会地域における特産品の市場開拓に関する調査」全国商工会連合会 1986.3
2. 石井廣志：「地域資源の活用③ むらおこしの現場から」全国商工会連合会「商工会、325」1986.8
3. 「商工会地域における新特産品開発の手法に関する調査」全国商工会連合会 1987.3
4. 石井廣志：「地域特産品の現状と市場開拓の視点」全国中小企業団体中央会「中小企業と組合」1987.7
5. 石井廣志：「地域再生への試み④ 益子町の明日を拓く」全国商工会連合会「商工会、337」1987.8
6. 「地域個性化の展開」福井県商工会連合会 1989.3
7. 「報告書」活力ある地域づくりに関する懇話会 1989.12

8. 「地域個性化への展開」福井県商工会連合会 1990.3
9. 奥間圭子・石井廣志：「観光消費の風間浦経済に及ぼす影響」東京家政学院大学紀要 第35号 1995.7
10. 石井廣志：「地域産品の開発と農業高校・水産高校等―連携・協力のための新たな視点―」東京家政学院大学紀要 第35号 1995.7
11. 石井廣志・奥間圭子：「リゾート施設における経済的波及効果推計―「マリニピアくろい」を対象に―」東京家政学院大学紀要 第36号 1996.7
12. 石井廣志・奥間圭子：「特産品としてのさつまいも関連商品の市場流通―全国動向と川越市の試み―」東京家政学院大学紀要 第39号 1999.7
13. 「瀬戸田町勢要覧」広島県豊田郡瀬戸田町 1999.10
14. 石井廣志：『'99むらおこし白書―16年目を迎えたむらおこし事業「再びむらおこしの現場から」』全国商工会連合会 1999.11
15. 「瀬戸田町中心市街地活性化基本計画～ひかり輝く芸術と歴史・文化のまちへ～」瀬戸田町 2000.3
16. 第3セクター研究会編著「地域経営の革新と創造―分権時代の第3セクター―」透土社 2000.5
17. 「瀬戸田町中心市街地商業活性化―TMO構想」瀬戸田町商工会 2001.3
18. 石井廣志・奥間圭子：「個性的なむらおこしの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 2001.7
19. 佐藤はるな・石井廣志：「個性的なまちづくりの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 2001.7
20. 瀬戸田町教育委員会編「瀬戸田町史―資料編（1997）、民俗編（1998）、耕三寺編（2001）、地理編（2003）」瀬戸田町教育委員会 1997～2003